

topriver

日本農業の為に

地域農業を変えれば？ 変えるには？

in 日経調

農業生産法人 (有)トップリバー

代表取締役社長 嶋崎 秀樹

2016年2月17日

日本農業への思い

- 農林業センサス参照
- 10年後の農林業センサスの数字が楽しみ
- 我々は今から分析、判断、実行する決断力
- 天然資源から生産資源（今回は農産物）
- いつ農業政策が米から離れられるか楽しみ
- 「食えない農業者」をいつまで支援できるか楽しみ
- 10年、20年先の需要・供給のバランスの勉強
- 農業界がどの立ち位置まで上がれるか楽しみ
- 国内・国外への「流通革命」が明暗を分ける

今のJA

- 農協法からの乖離、行動、思考（思考回路が？）
- 市場への依存度拡大（丸投げ）
（麻痺、足枷、無責任、無欲、慢心、やっかみ）
- 市場外流通への偏屈思考
（法人は敵、既得権死守、不勉強、被害妄想等）
- 人材を育てられない⇒出来たものを売るだけ
- 農産物も指導できないJA職員の増加（規格のみ）
（農家の所得、豊かさを自慢出来ない、言えない）
- 承知の通り共済と、信用で生かされている

良いJAの事例

- **JAきみつ**⇒4人の若者の生活
(職員が法人に前向き、全農も支援)
- **組合長で決まる(担当がダメだと苦労)**
- ネガティブ的でなくポジティブ的発想のJA
- **JAあわじ島**の受け入れ例(避けられぬ高齢化)
(JA子会社の実態、森組合長の方向性)
- **JA信州諏訪**の雨宮組合長
(みらい基金の「富士見みらいプロジェクト」)

※この事業の全国普及が私の使命 3

行政の〇×

- ※ **メリット** （害になる人材が少ない）
 - 無駄な予算の中に良い予算がある
 - 仕事を良くしてくれる(レベルの低い人の存在)
- ※ **デメリット** （経営とは別世界）
 - 我々が求める環境を作らない、作れない
 - まだ米中心の農業政策
 - 先を見越した農業経済予測が出来ない
- ※ **農業を、大企業、中小企業のように、区別した施策を。(本当に平等な「老若男女政策」)**

富士見みらい農業プロジェクト



富士見みらいプロジェクト概要



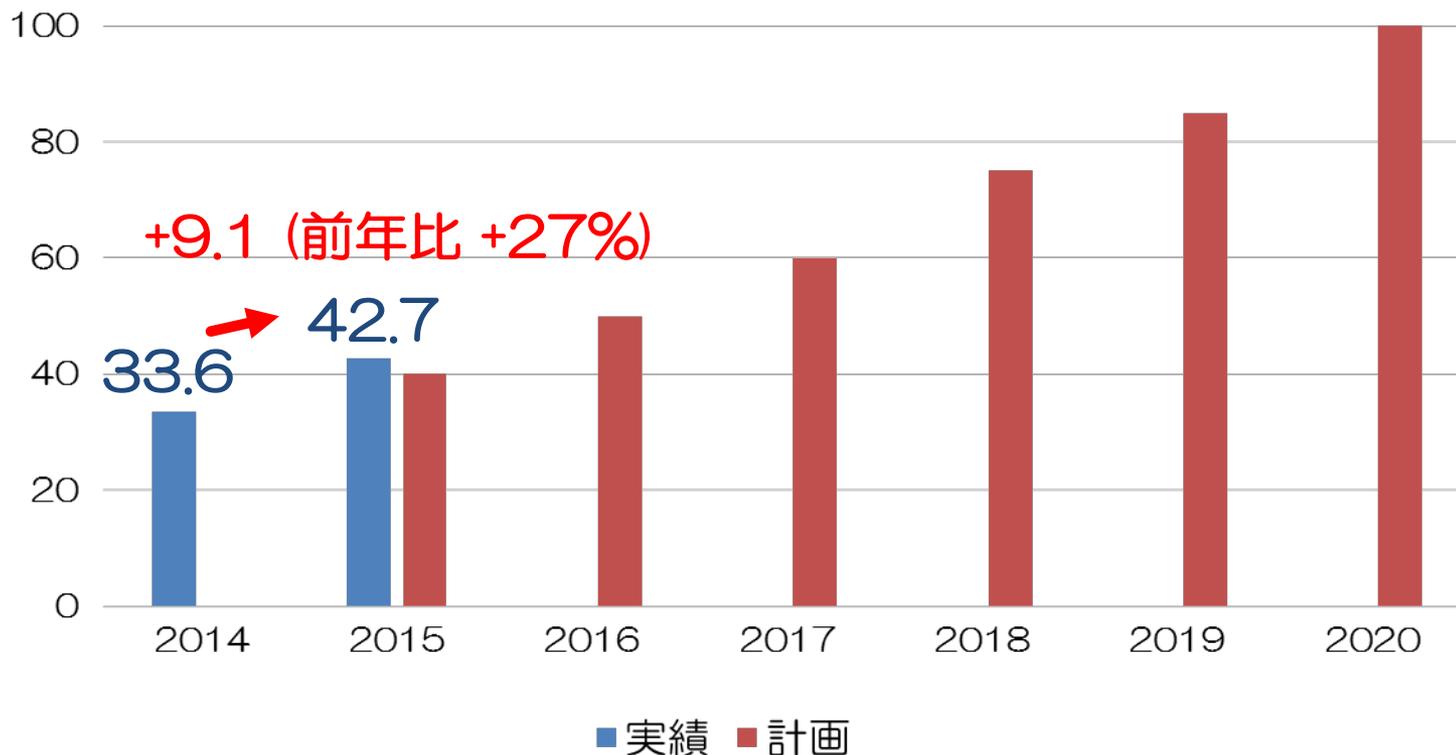
- 農地の有効活用による地域活性化と雇用創出による経済効果を目的に2014年に発足
- 富士見町・JA信州諏訪・トップリバー主導のプロジェクト
- 2020年に作付け面積100 haに達する高原レタス・キャベツの新しい産地を形成するプロジェクト
- 資金面での（社団）農林水産業みらい基金のサポート

計画と実績



(単位：ha)

作付け面積



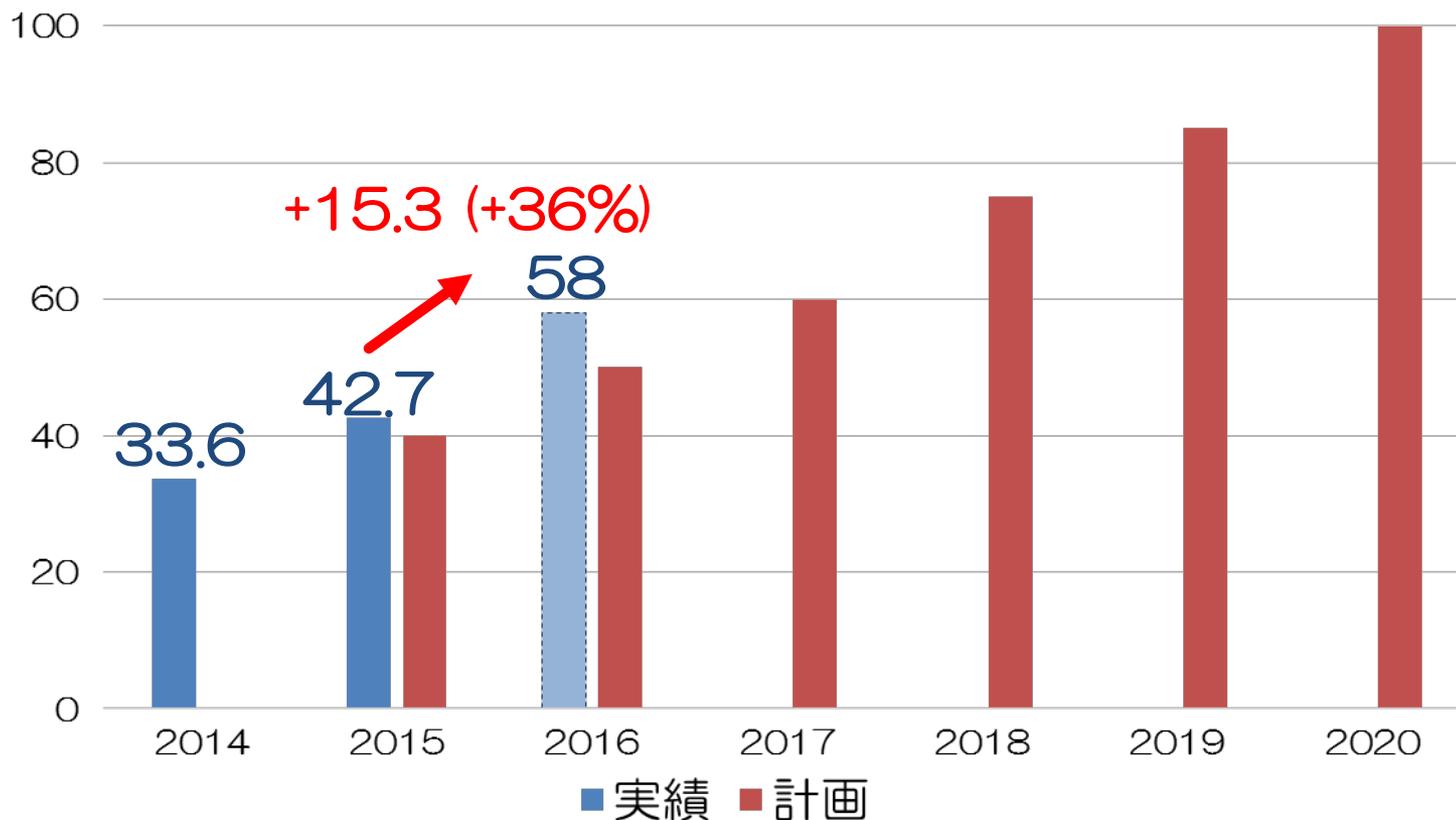
2015農場別内訳 自社農場：32.3 独立者：10.4
2015品目別内訳 レタス：30.0 リーフ：2.3 サニー：3.1 キャベツ：7.3

2016年作付け面積



作付け面積

(単位：ha)



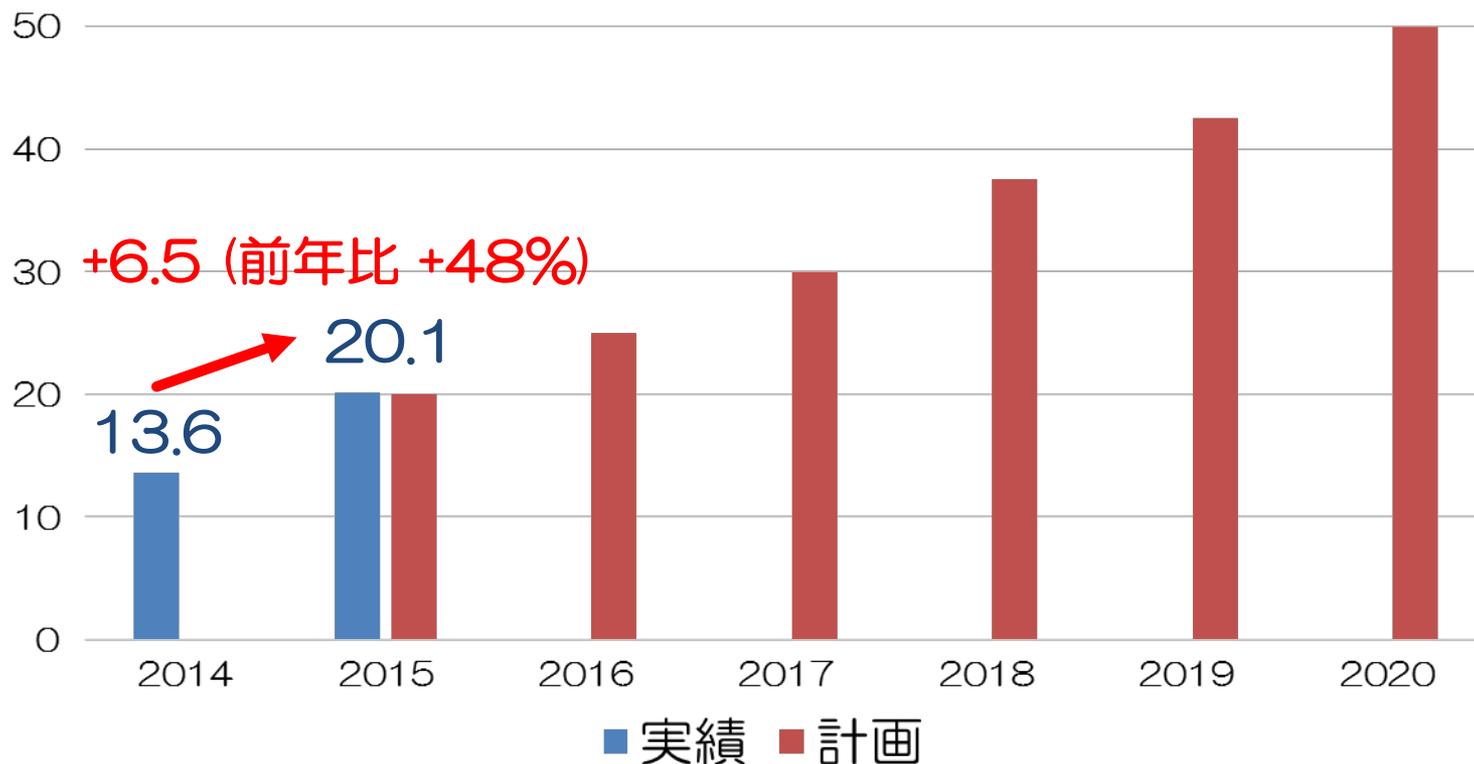
2016年農場別内訳 自社農場：45 独立者：13

計画と実績



(単位：万ケース)

出荷ケース数

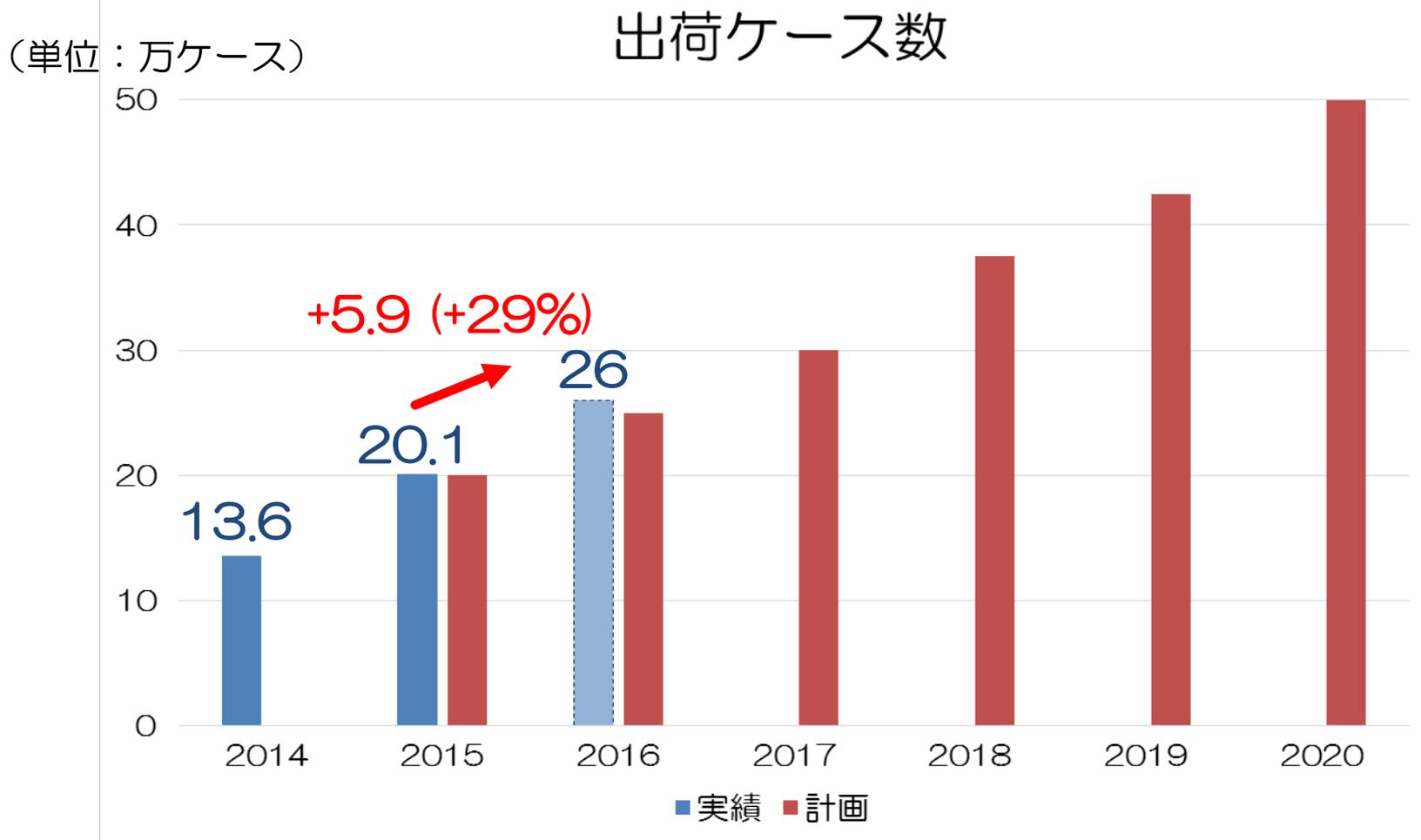


2015農場別内訳 自社農場：15.4 独立者：4.7

2015品目別内訳 レタス：14.2 リーフ：1.3 サニー：1.5 キャベツ：3.1



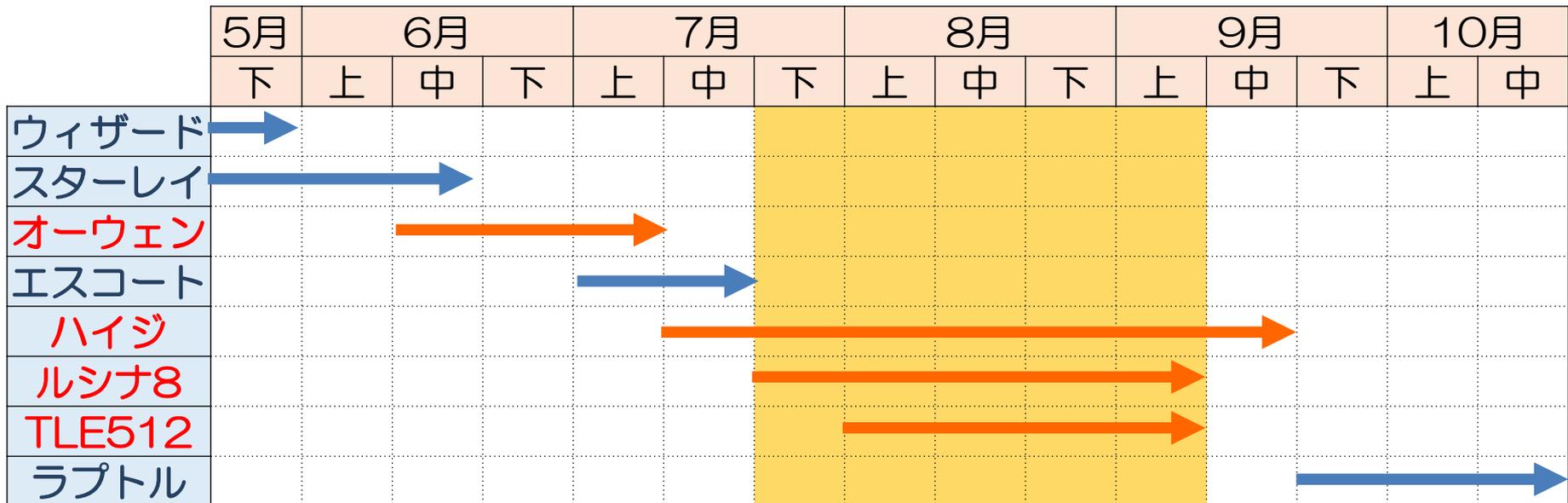
2016年出荷ケース数



2016年農場別内訳 自社農場：20 独立者：6



2016年品種



2014試験・2015導入品種 ルシナ8、TLE512
 2015試験・2016導入品種 オーウェン、ハイジ

新品種を積極的に導入

新規圃場の対策



明渠で排水対策



サブソイラーで硬盤破壊



ストーンピッカーで除礫



除礫後の石

米農家の転作

- 農水省の米政策⇒飼料米？⇒悪の延命方法
↓
 - 野菜等への転作は？⇒米とのローテーション
↓ 売上だけなら⇒85:15で同じ
 - カルビーのジャガイモ(松尾氏)
(昆さんのモロコシとはどこが違う？)
↓
 - 若い米農家の発想の転換と技術の習得
- ※ 所得、雇用、人材育成、地域農業の継続

農事組合法人を株式化へ

- 5万法人の数字での間違い(危険性)



- 目的が明確でない為の迷惑
(ルール作成が急務:たとえば1000万円以上)
- 農事組合は現状か? 進化か? ⇒分岐点にいる
- 農事組合法人にはリーダーがいない、育ちにくい
(株式化で、馴れ合いからの脱出・数字管理)
- 補助金誘惑からの脱出(いらぬ補助事業減)
- 地域内の個人、組織の区分け化(難しい)

必要となる人材育成

- 産地の中心となる農業経営者、法人経営者
- 地域農業はドラマと同じ
(主役、脇役、エキストラ、裏方、監督などが
必要であり、主役中心にどう演じるか)
- 農業流通の主役、プロの育成も忘れない
- 裏方、監督は出演者が活躍できる環境作り要
- 原作者、台本家、演出家等発掘、育成
- 地域ドラマをいくつ作るか、全国ドラマの作成も
- 例として前述の「農事組合法人の株式化」が必須

若者の教育方法

- 農業参入する若者の減少(不安)
 - 満たされた、**欲の無い生活習慣**
 - **共同生活**の実施(**環境**を整える)
 - 指導できる指導者の育成(誰が育成?)
 - 同レベルの「**人材グループ化**」の**環境**
 - 成功する、儲かるを植え付ける
- ↓
- 成長するセスナ機と思うべし(最初は飛べない)
 - **学者、コンサル人等は入口までしか誘導できない**

稼げる若者の実績

- 「稼ぐ、儲かる」の基準？
 - 売上、家族人数では比較できない
 - 基本⇒個人の「給与収入」で計算（家族は別）
↓
 - 5年位まで⇒500万位
 - 6年以上なら⇒800万以上が基本かな？
（上記の金額を達成するための環境作りが必要）
 - 当社の場合⇒……………が現状
- ※なぜ結果が出るのか分析、実行が必要

若者が農業経営者になる時代



最近の契約栽培

- ※ メリット （今後は変化していくでしょう）
 - 安定栽培法確立は安定収入。予想立てられる
 - 安値時代、大規模農家には必要だった
 - 新規、規模拡大にも必要な方法

- ※ デメリット （出来る産地が縮小化）
 - 安定供給には技術、ノウハウ等が必要
 - 小規模農家には向かない
 - 現状単価では契約数量が維持できない
(上げたくとも下の価格を提示する産地現れる)

最近の契約販売

- ※ メリット （メリットが減少傾向⇒変化あり）
 - 契約条件の良い実需者を選べる時代へ移動中
 - 一定の売上金額が見込める（キャッシュフロー）
- ※ デメリット （負の要素が増加傾向）
 - 契約単価が25年前の2/3であり昔に戻らない
 - 食品流通がデフレから脱却出来ない
 - 運送条件の変化で小口配送できない
 - 安定供給の苦労を理解できない流通担当者増
 - 夏は雨、冬は温度、前線、台風、異常気象が当然

企業の地域農業の可能性

- 露地野菜への参入は厳しい
(労力と時間と単価)
- 労組、給与収入、福利厚生、諸経費等の問題
- 機械の効率化が分岐点(人件費が大きい)
↓
- 企業参入が出来る、出来にくい、出来ない
- 植物工場の将来性(企業参入にはいいのでは)
↓
- 海外での需要(製造・供給単価と購買力)

今後の輸出・輸入

- 最近は円安もあり一部の野菜が輸入より安い
- 諸問題あるが輸出拡大の可能性大
(品目的に誰がどこで生産するのか)
- 米農家以上に野菜農家の減少化進む
- 需要・供給のバランス差で国産品の品薄頻繁化
(外的変化×人的問題が拡大傾向)
- 上記から現在のデフレ流通がどの様になるか
↓
- 多くの勝ち組農家が残り、生まれる

20年後に対し今出来る事

- 農業者の区分け(農家、農業者、農業経営者)
(農業者別補助事業＝老若男女別事業)
- 農業が「生活保護産業から必要産業」への転換
- 地域農業の活性化(前述の実行)
- JA(単協)を「農業法人以上の機関」に変える？
(共済・信用事業抜きでの勝ち残り方法の修練)
- 流通革命(4兆弱⇒40兆～70兆)にメス
- 「90年目の農地改革」に向けて今から活動始め
- 政治に左右されない農業業界の確立

- 農業は人により作られ、
変えられる
- 時代に対応できない人、
組織、産地は……………
- 農業で幸せになれなければ、
是も非もない